



施工会社も納得、建築段階からひとにやさしい家

－東京都・朴洪実さん邸－

EMハウスとは、基礎、コンクリート、柱など建築材料に活性液やセラミックなどのEMを活用した家で、EMの持つ抗酸化作用により、シックハウス対策、建築物の耐久性向上、健康の維持増進などの特徴を持つ。福島第1原発事故を機にEMに出会い意欲的に勉強を続けてきた朴洪実さん念願のEMハウス建築現場を訪ねた。

■建築関係者への丁寧なEMの説明を行う

朴さんはEMハウスを建てるにあたり、まず施工会社と建築設計士にEMについてのデータを示しながら丁寧に説明し理解を得ることからはじめた。実際の工事がはじまると、建築現場には最低でも週1回顔を出し、現場の職人さんと建築工程でのEM活用作業の確認などこまめなやりとりを行った。そればかりでなく、内壁の珪藻土塗は職人さんにまじって朴さんの旦那さんも汗をながすなど、協働作業も行った。

■職人の疲労が少なく、現場には活気あふれる

ここでは、一般の建築現場とは異なる点がみられたと現場監督はいう。まず新建材特有の臭いがしない。このため職人さんの疲労が少ない。「実際、ここでは朝から暗くなるまで作業に打ち込む姿が見られました。また、普段無口で有名な職人さんが快活に話している姿を見たのも驚きでしたね。一言でいえば活気がありました」と現場監督。

EMハウスは、建築の施工段階から人の和を生じさせている。EMに宿る「共生」の力が発揮されているのだろう。

朴さんはEMハウスについて「シックハウス対策で大変満足している。近々、放射能対策などEMを学ぶための勉強会を『EMキッチン世田谷』と名付け仲間と集える場にしたい」と意欲的だ。※EMハウスについて詳しくお知りになりたい方は、U-ネット事務局までお気軽にお電話下さい(TEL03-5427-2348)。



朴洪実さん(左)と息子さん。ネットを通じて、2000人を超える全国のEM仲間と交流し、勉強している



建物を支える骨組みには丁寧にEMを塗布



地盤にも1m以上湿るよう活性液を散布



リビングに設けた畳コーナー下には水晶を敷き詰めるというこだわりも